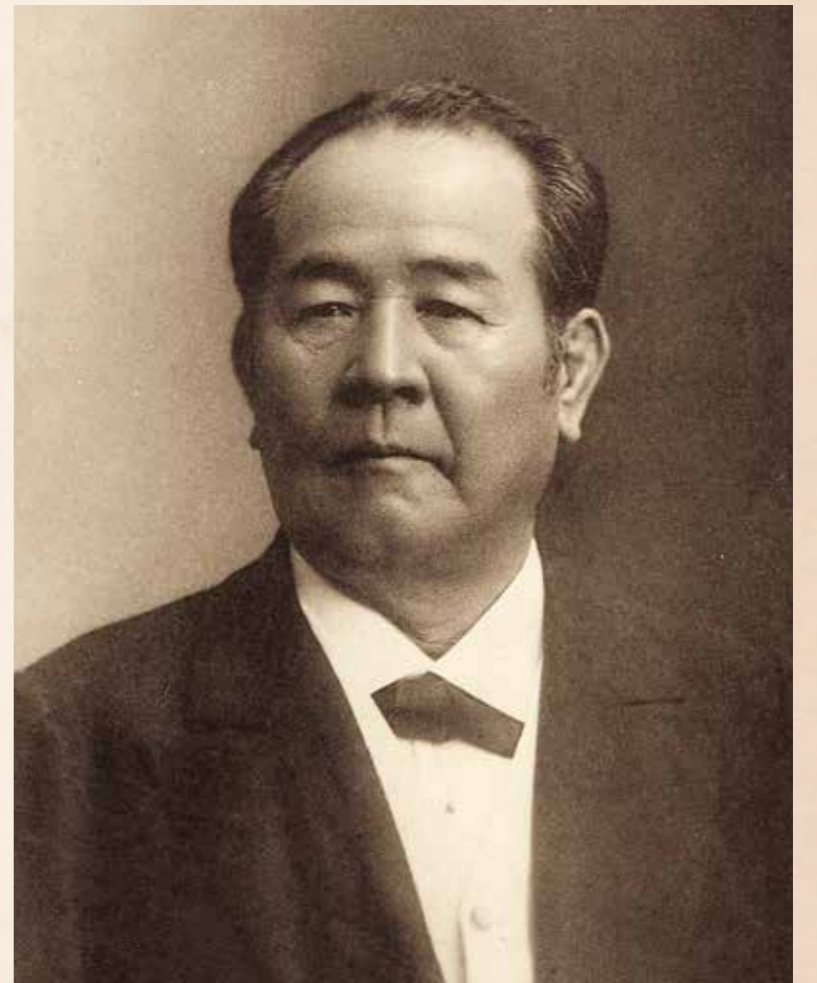


仙台商工会議所130周年記念特別企画

仙台商工会議所の 礎を築いた 3人の先達

～ 渋沢栄一・尾高惇忠・遠藤敬止 ～



渋沢栄一肖像(写真提供:東京商工会議所)

渋沢栄一
幕末、明治、大正、そして昭和という激動の時代を駆け抜け、急速に進む近代化の中、第一国立銀行をはじめ生涯で約500にもものぼる会社の設立や運営に携わった、「近代日本経済の父」とも称される人物です。

2024年から新一万円札の顔となることが決まり、NHKの大河ドラマ「青天を衝け」でその生涯が描かれていることから改めて数々の功績に注目が集まる渋沢ですが、実は仙台の経済とも深いかわりを持っている、というのは知られざるところ。そこで今月号では、商工会議所の成り立ちにスポットを当て、渋沢栄一や彼にゆかりのある人物と仙台との意外な関係を紹介いたします。

商工会議所の成り立ち

東京商法会議所の設立と 初代会頭・渋沢栄一

商工会議所の母体は、中世から近世にかけて、西欧諸都市で結成された「ギルド(同業者組合)」だと言われています。世界初の商工会議所は1599年にフランスで組織されたマルセイユ商業会議所。それ以来、ヨーロッパ諸国で続々と会議所が設立されました。

日本で初めて会議所が設立されたのは1878年(明治11年)のこと。当時の日本は、幕末に欧米列強と締結した不平等条約を撤廃するという大きな命題を抱えており、そのためには「世論」の構築、つまり国内において商工業者の意見を取りまとめられる組織づくりが急務とされていました。そこで、大蔵卿・大隈重信、内務卿・伊藤博文ら政府首脳は実業界への協力を求めます。これを受けて商法会議所の設立に尽力した人物、それが渋沢栄一でした。



[写真上]1899年(明治32年)の東京商業会議所ビル(写真提供:東京商工会議所)

[写真中]現在の東京商工会議所ビル1階に立つ渋沢栄一の銅像(写真提供:東京商工会議所)

[写真下]宮城商法会議所の設立に尽力し、仙台商業会議所副会頭を務めた尾高惇忠(写真提供:渋沢栄一記念館)

渋沢は、英国に範をとって「東京商法会議所」を設立。初代会頭に就任します。

以来、商法会議所は、不平等条約の撤廃と日本実業界の地位向上に向け、商工業にかかわるさまざまな報告、議論、調査、さらには国際交流など幅広い活動を行っていきました。

商法会議所から商業会議所 そして商工会議所へ

東京商法会議所の設立を皮切りに、同年には、大阪(8月)、神戸(10月)にも商法会議所が設立されます。以降、1885年(明治18年)までの間に、全国で32の商法会議所が誕生しました。

その後、東京商法会議所が東京商工会に改編されるなどの紆余曲折を経つつ、全国的な経済の発展と国際化の進展に伴って会議所制度の強化が求められるようになると、1891年(明治24年)に「商業会議所条例」が施行。東京商工会ほか任意団体であった各地の商法会議所は、法による根拠を得て「商業会議所」として新たなスタートを切ります。さらに1928年

渋沢栄一と東北経済

渋沢の東北振興への思い 宮城商法会議所の誕生

(昭和3年)には、「商」とともに「工」の比重も高まってきたことなどを背景として、「商工会議所法」が施行され、全国の商業会議所は「商工会議所」へ移行しました。そして、1953年(昭和28年)に現行の商工会議所法が施行されたことにより、商工会議所は今の体制となり、現在では全国515のネットワークで、地域に根ざした活動を展開しています。

明治初期の東北は、殖産興業などの政策で国力増強が進められる全国の他地域に比べて開発の遅れが目立っていました。宮城においても、日本初の近代港湾として明治政府による東北開発の中心の事業と位置付けられた野蒜築港がわずか数年で台風被害により損壊するという不運も重なり(その後修復も断念)、地域経済をなかなか上向かせられずにいたのです。

渋沢が東北振興に強い関心を抱くようになったのはこうした時分のこと。理由は諸説あり、第一国立銀行の大株主だった小野組が倒産し、その傘下にあった福島県二本松の製糸場が整理対象になったこととその影響を懸念したからとも、自身の民部省入省のきっかけとなった宇和島藩主・伊達宗城との縁で、もともと戊辰戦争後の仙台・東北を気にかけていたからとも言われていますが、いずれにせよ渋沢は、このころから「産業の停滞している東北の開発こそ急務」と、さまざまな支援に乗り出すようになっていきました。

仙台における商法会議所の設立は、まさにこの時期と重なります。国内で商法会議所の設立が相次ぎ、仙台でもその機運が高まりを見せていた中で、既に東京商法会議所会頭に就いていた渋沢は、義兄である尾高惇忠を通して仙台での会議所設立を呼び掛けます。そして、尾高の要請に応じた地元実業家らによって発会の議が決せられ、会頭に遠藤敬止を推して、仙台商工会議所の前身である「宮城商法会議所」が設立されることになりました。東京商法会議所の設立から遅れること2年、1880年(明治13年)のことです。

渋沢が信頼を寄せた二人 尾高惇忠と遠藤敬止

渋沢が宮城商法会議所の設立推進を依頼した尾高惇忠、そして初代会頭となった遠藤敬止。仙台商工会議所の歴史を語る上でとても重要な二人の人物ですが、初めてその名を聞くという読者も多いのではないのでしょうか。



[写真右]宮城商法会議所初代会頭、仙台商業会議所第2代会頭となった遠藤敬止
[写真左]1911年(明治44年)に新伝馬町へ移転した頃の仙台商業会議所

尾高惇忠(1830~1901年)は、
洪沢が生まれた武蔵国樺沢郡血洗島村
(現・埼玉県深谷市)の隣、下手計村に生
まれ、幼少期から優秀の誉れ高く、自宅に
私塾を開くなどしながら近隣の子弟に学
問を教えていました。洪沢も彼から教え
を受けた一人です。幕末の志士として活
動をともにした時期もある二人は、もと
もといと同志である上、洪沢が尾高の
妹・千代を妻に迎えたことで義兄弟にも

「商工会議所法」の施行により仙台商
業会議所から「仙台商工会議所」へ移行
して初めてとなる大きな催しを何として
も成功させるべく、第6代会頭・伊澤平左
衛門(後に第8代会頭に就任)らの求め
により総裁となった洪沢は、このとき88
歳。高齢の身でありながら開催に際して
メッセージを送るなど、博覧会成功の大
きな後ろ盾となりました。
洪沢が91歳でその生涯を閉じたのは、
博覧会の開催から3年後の1931年
(昭和6年)。最期を迎える直前まで、東
北の未来を案じ、その潜在能力を信じて、
発展に向けて力を注いだのでした。

本稿に関連する主な動き

1830年	文政13年	尾高惇忠誕生
1840年	天保11年	洪沢栄一誕生
1849年	嘉永2年	遠藤敬止誕生
1878年	明治11年	東京商法会議所設立。初代会頭に洪沢栄一就任
1880年	明治13年	第七十七国立銀行創立
1882年	明治15年	宮城商法会議所設立。初代会頭に遠藤敬止就任
1884年	明治17年	野蒜築港第一期工事完成
1885年	明治18年	台風で野蒜築港に大きな被害(翌年修復断念)
1889年	明治22年	内閣制度発足。初代総理大臣に伊藤博文就任
1889年	明治22年	仙台市誕生
1890年	明治23年	大日本帝国憲法公布
1890年	明治23年	商業会議所条例公布
1891年	明治24年	仙台商業会議所設立。初代会頭に早川智寛、副会頭に尾高惇忠と遠藤敬止就任
1895年	明治28年	第二代会頭に遠藤敬止就任
1901年	明治34年	尾高惇忠死去
1904年	明治37年	遠藤敬止死去
1928年	昭和3年	商工会議所法施行。仙台商業会議所から仙台商工会議所へ
1931年	昭和6年	東北産業博覧会開催
1953年	昭和28年	現行の商工会議所法施行

なったという間柄。幕末の動乱期を経て、
新時代・明治を迎えると、尾高は、こうし
た洪沢との縁もあり、現在は世界遺産に
も登録されている「富岡製糸場」(群馬
県)で初代場長を務めます。その後、18
77年(明治10年)には第二国立銀行盛岡
出張所(翌年盛岡支店に昇格)支配人に
就任。1887年(明治20年)からは洪沢
の要請で同行仙台支店の支配人を務める
など、東北経済の発展にも力を尽くしま
した。墓碑は郷里である埼玉県深谷市に
あり、そこには洪沢の手で「学あり行いあ
り。君子の器。われまた誰をか頼らん。何
ぞわれを捨てて逝けるや。」と記されてい
ることから、尾高を生涯の師として頼り
にしていたことがうかがえます。

一方、遠藤敬止(1849~1904年)
は、会津藩士の子として江戸で生まれま
す。遠藤も幼いころから才に恵まれ、江戸
幕府が設立した洋学の研究教育機関で
ある開成所で英語を学びます。戊辰戦争
の敗戦で囚われの身となりますが、釈放
後は九州での英語教師を経て慶應義塾で
経済学などを学び、その後大蔵省に出
仕。銀行事務講師となります。そのときの
働きが洪沢の目にとまり、それから彼の
手足となつて能力を発揮するようになって
いきました。1878年(明治11年)、仙台
に第七十七国立銀行(現七十七銀行)が
設立される際には、洪沢の求めに応じて
同行に赴くと、銀行業務を軌道に乗せる
にとどまらず、第2代、4代頭取も務める
など大いにその任を果たし、仙台経済の
発展に努めました。
こうした、洪沢栄一という日本経済史

大きく飛翔する未来へ

地域発展の根本は

地元民の努力にこそあり

洪沢が東北振興についての考えを述べ
た言葉が残されています。

東北振興策の根本は、東北人の奮起努力
に在ることと言ふ迄もない。東北人にして
現状に満足せず、奮然(ふんぜん)躍起(えつき)、不撓不屈(ふたうふくつ)の
精神を以て有らゆる方面に活動せぬと、
中央の有力者が如何に助力するも、到底
満足なる効果は挙げられぬのである。

における大人物と、彼がその才覚を認め
た二人によって、仙台経済界の礎は築かれ
ていったのです。

晩年まで続く 洪沢と仙台との縁

1891年(明治24年)、「商業会議所
条例」が施行され、任意団体であった宮城
商法会議所が下地となり「仙台商業会議
所」が発足します。商業会議所としての
初代会頭に就任したのは、野蒜築港の工
事主任として大蔵省から宮城県に派遣
され、土木課長を務めるなど県土木事業
の基盤を築いた早川智寛。早川を支え副
会頭に就任したのは、尾高惇忠と遠藤敬
止でした。

尾高は、翌年の1892年(明治25
年)、その功績と人柄を惜しまれつつ仙台
を離れます。

遠藤は早川の後任として第二代会頭に
就任。亡くなるまで、商業会議所会頭と
七十七銀行頭取という二足のわらじを履
いて仙台経済界の発展に尽力しました。
また、遠藤は、文化面でも東北の歴史に
その名を残しています。1890年(明治
23年)、政府が会津若松城の払い下げを
決定すると、彼は集めた募金に私財を加
えて旧主の松平家に寄贈。会津若松城
は、今もその姿を悠然と残り、東北の歴
史を学ぶ重要な史跡のひとつとなってい
ます。

尾高と遠藤に仙台経済を託した洪沢
もまた、晩年まで仙台・東北の発展に心を
砕きました。第一次世界大戦や関東大震
災等の影響で国内経済が不況にあえいで

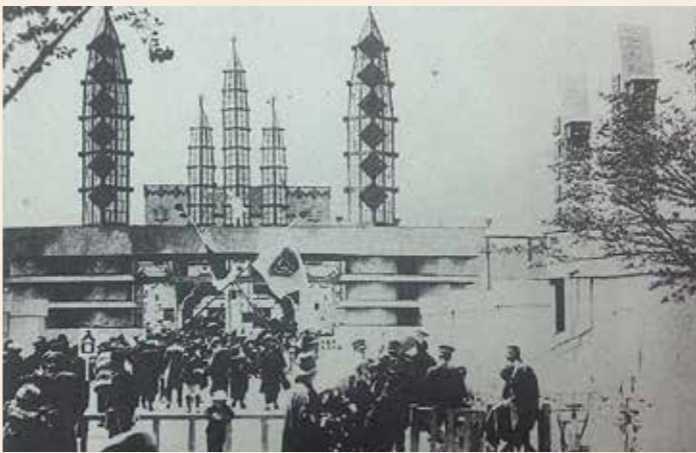
顧みると、仙台経済の発展には、本特集
で紹介したように、洪沢栄一、尾高惇忠、
遠藤敬止といった、もともとは仙台にゆか
りのなかった人々も大変深くかかわってき
ました。しかし、例えば宮城商法会議所
の設立に際しては、度量衡業を営み、後に
会議所の移設先も世話した加藤彦七郎、
醤油醸造業である一方で秋保電鉄創立者
の顔も持つ小林八郎右衛門、芭蕉辻勤工
場(勤工場はショッピングセンターの前身)
をつくった高橋藤七など、在仙実業家た
ちの存在が大きな原動力となりました。
さらに、仙台経済発展の裏には、日本銀行
の初代副総裁・二代目総裁を務めた富田
鉄之助(後に貴族院議員や東京府知事も
歴任)ら仙台出身で有力な地位にあった
人物たちの支えがあったことも忘れては
なりません。洪沢の言う「東北人の奮起
努力」があったからこそ、今日の仙台が形
づくられてきたのです。

こうした歴史の上に立ち、今年、仙台
商工会議所は130周年を迎えます。こ
れは、任意団体である「宮城商法会議所」
が法に基づく組織として「仙台商業会議
所」となった1891年(明治24年)から
数えてのことです。1899年(明治32
年)には会議所運営を支えることなどを
目的として市内商工業者により仙台商
工経済会が組織されるなど(戦前にでき
た商工経済法に基づくものとは別組織)、
これまで会議所は多くの支援を得ながら
取り組みを進めてきました。今もさまざ
まな事業を行うことができているのは、地
域商工業者の皆さまの変わりぬご理解と
ご協力があるからです。

いた1928年(昭和3年)、景気回復と
いう大命題を背負いながら、仙台商工会
議所の主催により東北産業博覧会という
催しが開催されます。総観覧者数約45万
人、好評につき会期が延長されるほどの
盛況ぶりを見せた昭和初期の仙台におけ
る大イベント。この博覧会開催にあたり、
総裁に就任したのは、誰あろう洪沢栄一で
した。



[写真右]東北産業博覧会のポスター
[写真左]東北産業博覧会の主会場東正門



仙台商工会議所は、これからも、東日
本大震災からの復興の完遂、コロナ禍から
の経済再生を目指して、地域商工業者の
皆さまとともに、仙台・東北が自ら未来を
切り開き、大きく飛翔していけるよう活
動を続けていきますので、どうぞこれら
もご支援をよろしくお願いいたします。

- 【参考文献】
- 「仙台商工会議所百年史」
- 「仙台商工会議所月報飛翔2013年4月号
明治実業家列伝の遠藤敬止」
- 「商工会議所とは(日本商工会議所)」
- 「洪沢栄一伝記資料第56巻
(洪沢栄一伝記資料刊行会)」
- 盛岡市ホームページ
- 【編集協力】
- 公益財団法人洪沢栄一記念財団洪沢史料館
- 洪沢栄一記念館
- 東京商工会議所

130周年記念史 「仙台商工会議所130年の歩み SINCE1891」

2021年10月下旬に130周年記
念史を発行します。
仙台商工会議所ホームページに
掲載しますのでぜひご覧ください。
<https://www.sendaicci.or.jp>

